学校のありたい姿を描き 共有することで生まれるもの

学校のありたい姿を言葉にするスクール・ポリシー(SP)は、 その策定や運用のプロセスから三者三様で、各校の個性が表れます。 けれども、その取組でもたらされるものには共通点もあるようです。 言葉を編むことで、学校や先生、生徒にはどんな変化が生まれるのか。 札幌市立高校3校と教育委員会の座談会と、3つの学校事例から探りました。

札幌啓北商業高校 (北海道·市立)

進路指導部 三谷俊介先生

学校データ 1941年創立/未 来商学科/生徒数697名(男 子273名、女子424名)/札 幌市立高校のなかで唯一の実 業高校。2017年から2019年 まで文部科学省のSPH(スーパー・プロフェッショナル・ハイス クール)指定校。

札幌市 教育委員会

指導主事 牧野弘幸先生

関連データ 札幌市による市立 高校の目指す生徒像は次の通 り。「夢や希望の実現に向かっ て、主体的に学び、探究する生 徒。個性や多様性への寛容さ を持ち、他者と協働し、新しい価 値を創造する生徒。積極的に 社会と関わり貢献する生徒」。

札幌大通高校

(北海道·市立) 副校長 三関直樹先生

夕 2008年創立/普

通科(単位制)/生徒数1142 名(男子515名、女子627名) /「社会に近い、開かれた高校」を謳う、午前・午後・夜間の 三部制の定時制高校。地域と 連携した探究を推進、ユネスコ スクールにも加盟。

札幌旭丘高校 (北海道·市立)

数理データサイエンス科主任 坂庭康仁先生

学校データ 1958年創立/普通科・数理データサイエンス科(単位制)/生徒数946名(男子351名、女子595名)/進学校として社会に貢献する次世代リーダーの育成を目指す。2022年度より数理データサイエンス科を開設。

'n

の学

校

自

校

0

特

色

と札

札幌大通高校の

スクール・ポリシーの策定プロセス

SMやSP策定の中核に

・ 開校の理念

• 学校の教育目標

市教委の学校基本構想

[管理職・分堂部長・年次主任]

情報収集

以下で学校の存在意義の再確認

検討

企画運営委員会がたたき台

→分掌・年次会議で意見募集

→意見を集約、7月にSM策定

■職員会議でSP確定

→SMを基に、続いてSPの検討へ

運用

■転任・新任の先生に「本校の生徒

SPに裏付けされた新年度計画

の実態」とSPをセットで共有

●従来からある企画運営委員会を



重

ね

S M を

一緒に形

づくったのです

えで教

育

委員

会と学校

が協

議

作

ること

を

お

願

L

しまし

0

ション

を

踏まえて、

S M Ø た。

原 幌

資

質

どういう手順で進める どんなメンバー を核に

まず、 す。 はどれも各校の特徴がよく出ていま ン (SM スカ ら 進め 視市立 れたのでしょう? 卣 教 やスクール 育委員会は は たかを その 高校のスクール・ミッ 何わせてください 策定と運用をどの この ポリシー 取組にどう SP

では、 を が、 Μ ージプロ は たのは、 ú は 供 打 をど 教 自 こちらの考 で 教 t 育改 子どもたちに多様 校 札 かったのです 指 出 きるよう、 育委員会が このように定めるかでした。 設 幌 してきました。 市内に8校ある市立 、革ビジョンを掲 生 置 市 教育委員会でまず 者 徒 えたを ル 像も示 が 参 2担当 再定義する、 押 照 校が異 以 しつける形にし 前から札 するわけ な選 げ、 そこでそれ ま 2017年 なる特 沢 一高校 市 た 議論 立. 肢 幌 っです つま (前 高 色 を S

> 学 えば この 各 校 は S P の たか、 校でどのようにSMやSPに携 にお 立 座 そうしてSM 集まりい 札 場 談 お話しいただけますか 幌 も異なる市 会には、 大通高校は、 策定も進めたのです ただきました。 学 を共 ・校のタイプも 立高校3校の先 作 生 徒 なが どんな 人 わら ね 6 違

です。 を 営 先 副 人の 分 を進 1委員 通 掌 内 生 校 ま から 部 多 長 L 方 が様な状 検討 た しめてもらった形です 生まれ 会を 人の 長 \hat{o} 0 定 と年 助 意 M で も 3 私 例 情 する際に新組 核に 言を基にたたき台を作成 見の集 は当 から始 0 -次主任 況に対応 た 報 分 共有や意 一時教 項目 掌会議 部 ま 約 め 制 が集まる企画 した。 を 頭として、 すべてを 0 することを 行 一織は作らず P の点を強 定 見の いまし 年次 時 そのメン 吸 制 校長 公会議 生 高 1/3 た。 目 運 調 徒 校

えた商 員 会を 話 が 札 出 業 立 、教育 る 幌 ち 前 啓 上 か 0) 北 げ、 から、 再 商 定 業高校では、 今 学 義 後 校改 P 10 年 革 育 ・を見 成す 検 討 S P る 据 委

2021年

4月

5月

6月

11月

12月

2022年

2月

を Collaboration,Challenge からいのり Р 0) 流 会でまとめたこと として私 ンピテンシ れでした。 中 0 時 心に進めることに 入れ 点 M や S P も関 固 · わ まり 3 C n 0) を ま 策 つつあ した。 定も 職 0) になり、 員会議で諮 検 たので 検 その 討委員 討 す

る S M まし を 理 言 この 自 1葉は既 開 テ 校 立 訓が 設 坂 を大事に やSPの 札 夕 したんです。 か ただ、 越 幌旭 あるなど、 えん イエンス あ ŋ 丘 してきた進 策 高校 ーという 午校は今日 定はスムー 普 科 この学科の方針は 通科をベ 学 は、 という 校を体 生 牟 生 徒と共作 度 学 ・ズに進 徒 校 より ースと 新学 現 の自 す 数

ちにグラデュエーション 能 力の ることになるCreation 整 理 を進 めていました。 ポリシー [委員 b 員 $\widehat{\mathsf{G}}$ 会 3 ました。 新 力 討

札幌大通高校のSM PICK UP!

●生徒一人一人の個性・能力を伸ばし、自らが目 標に向かって挑戦することができる学びの場

- ●生徒一人一人の社会的・職業的な自立に向け て、自らが主体的に生き方や将来を探究するこ とができる学びの場
- ●生徒一人一人の社会性を育み、自らが積極的 に考えを表現し、他者との豊かな人間関係を構 築することができる学びの場

「生徒一人一人」のニーズに対応するという開校の理念を前面に打ち 出している。

か 学 議 チー ポリ や ?ら検 科 論 ムの \tilde{O} 育 討 する必 き 員として数 Ã P まし Ŧ 生 徒像 言える 要 0) た。 が 策定にも携わ あ 年 その 「育成. アドミッショ ŋ 前 から 流 私 れで 仲 は ŋ 間 検

取材·文/松井大助 撮影/川原 亮

【情報収集・検討・決定】

どこから情報を集めて 何を話し合ったのか

情報収集はどう進めたのでしょう。 SMやSPの言葉を考えるため Ď

せるもの」と捉え、 SPを「理念を再確認し、 初の理念が色あせていないので、 目標などを参考にしました。 基本構想 開校から10年以上経つ今も、 開校の理念、 創立前の市教委の 本校の教育 目線を合わ S M や 当

校評価 地域 員アンケー の商 0) 学校の教育目標を踏まえつつ、 意向 一業教育の方向性を尋ねた教 トを実施し、 も汲むために、 トも活用. 生徒や保護者 しました。 既存の学

ることから始めました。 ば、 究に力を入れる高校や大学を視察す 各教員で手分けして理数系の探 を見定めていった感じです。 :学科のポリシー そのなかで方 に関して言え

面も たため、 見をあげ 会を通じて伝えていました。 うなやり取りがあったのでしょうか。 あると思い、 校内での検討段階では、 管理職からたたき台を提示し 先生たちが意見を言いづらい てほ しい、 先 と企画 生方の率直な意 運営委員 SPの検 どのよ

> や気持ち か高 ま 生 てしまう。 す 駄 してほしい力」として打ち出そう、 質 討 身につける力」とすると、「つけないと いい機 一徒が 目なもの」と捉え、 حے 能 まらないと生徒をネガティブに見 力を定めるGPは 目 会になった」 本校の設立 を大事にする学校でありた 「指す」というがんばる過程 そうではなくポジティブに、 という声 理念を見つめ その力がなかな 生徒に目 もあ 直 ŋ 指

フェッ が で、 例 思っていたんです。 できること」 業 校 な先生 業 教 の特 人の育成を図ってきました。 教員として未熟です 員がいます。 する教員と、 マネジメント能力を身につけ ショナル 検 色を改めて皆と情報共 本校には商 本校はこれまでにスーパー・ 方と 討することを目指 を発見 緒に ハイスク 私自 般教科を担当する 業の専門 ですので、 していけたら、 商業教育だから 身はまだまだ商 が、 ル指定の取 しまし 教 その多様 科を そのね この学 有 た職 しな プロ た。 ح 組 担

ではこんな意見がありました。 ع らい 活 育 ゃ

やSPに

でき はその らたくさんの思いが出っ なれる生徒を育てたい…。 きじゃない。 学 ば たことで、 感じ 校であり、 すのが伝統だ。 É てたい生徒像」 含めて生徒に任 1年近くもかかったんです。 今思えば必 方針に沿って皆で進めることが ています 何 !度も議論して言葉をまとめ カリキュラムを作る段階で 行政や学術研究の中心に 進学重視から逸脱すべ 要な時間だったよう 進学を期待された の言葉をまとめ せて自主 てきたためです 各先生 一性を か 伸 失

いしたことは、 SMの協議で教育委員会からお 文言の最後を 「学び

あったと感じています。

願

議で先生方と共有し、 ついて話し合ったのです !動も振り返りながら、 成果を資料にまとめ、 2018年 4月 4月 今までの教 S M

職員

育 会

実は新学科の「育 成したい 力

方向 湯 作る過程そのものに、 自 の学校をどんな学びの場に も目 身を振り返ることができ、 根本を議論することで、 一で統 指しやすくなった、 することでした。 大きな意義 というそ したい 先 自 同じ 生方 分た

が

to 0

札幌旭丘高校 数理データサイエンス科の スクール・ポリシーの策定プロセス ●新学科検討チーム発足 情報収集・検討 ■理数系の高校や大学を視察 検討チームで、新学科における「音 成したい力 |を議論 職員会議でさらに議論 2021年 準備・検討 4月 SMとSPの策定開始 新学科におけるAPの策定などは、 新学科検討チームが中核に

PICK UP!

札幌旭丘高校

- 1 知的好奇心にあふれ、科学への関心が高く、将 来にわたり探究し続けることを目指す生徒
- 2 理数分野を中心とした幅広い教養と情報活用 能力を身に付け、札幌や世界の諸課題に取り組 もうとする生徒
- 3 未知の分野に果敢に挑戦する気概をもち、仲間 とともに未来志向の議論や発信をする意欲を有 する生徒

APの前提として定めた「目指す生徒像」では、科学者・技術者を志す、 先端IT人材を志す、次世代リーダーを志す、という3つを掲げている。

能力の

何

0

成と結びつくか。

業やプログラムは、

GPで定めた資質

考えま

した。

個

実践

してきた授

校

内研

究会で、

S P

浸透

を兼 年

札

!幌啓北商

業高校では、

·度

生 基

「この先どんな教

育をするか」

を

資

質

能

力 育

をさらに

伸

ば

す

ため それら

札幌啓北商業高校の



今後

の教

育

活

動 使

るSPに沿って俯瞰

K

法

など

を

V

情

を整 出

理

分かか

れ

アイデア

É

創 報

するため

何をしたい

か

10

人ず

つのグル

運用

どのように生かしていくか 策定したSMやSPを

定後はどう運 用しています か。

と思っています をもって実践できるようにすることだ み ように。 が すときに、 度 を するため て考えることで、 かみ Ė. 新たな取 践 計 「先生 げ 匠を作 合っている てきたことをよ 一方が自 の根 S M 幌大通高校では、 学 S M や 組 - 校の目 るときや を求めるという やSPの 幹 信をもって教育実 か としていま 先生 S P I I 指 確 教 認す 運 一方の ŋ 方向 育 用は、 に照ら 明 活 Ź Ħ SMやSP 、快な意 動を見 す。 より、 性 ロ々の 先 合わせ という (D 生 歯 教 新年 践 車 直 図 積 方

は 気兼 した。 きるように あ ź ね なく話せるよう、 同 世 一代で集 グルー

方針 と思いました。 一はよく 高 信 ときち 成校の が は ないんです。 んと共 学科の立 理 数 解 発理デ 、有できているかはまだ てい ち上 -タサ 今 ま 後の参考にした げに イエンス科 が、 関 わった先 全 教 職 0

生

丘

員

13 徒 まと ホ あ しめた教 ŋ ル 室 がとうございま 0) 前 育 。 の 活 廊 動 下に 0 す。 全 張 体 ŋ 出 像

したのです。 まるようにしま 若 い先生でも プ分け

その 取 組、 です ね 札 幌 旭

S P e は L

生

ことで、 必 0) 化 学 ス リッ うにしよう を い力 方針 生 要だと感じていま 校 まとめ したなら、 クの 0) か でも学ぶなど、 1 を今以 我 の定 作成 同 マが ました。 ズが کی じ 牛 です 義に基づ 方向 変化に合わ 上に進 徒 主 層高 ただ、 が を目 自 そ 進 新学科 n 化 ま 己 É 社 8 デ 指 を教 ŋ 評 させることも 会でより た せてこの して学べるよ たのは 価 評 0 ・タサ 員が指 仮に小 にも使 価 育 の観 ル イエン 学 成 1 科 般 点

ビジネ 一徒の状 即 合 スの変化も早い 本校では、 本校のSMやSPも、 わ 況を踏 せて見直していきたいです 商 業教 にまえた対 転 育 任 ができるように。 Ö で、 新 応をするた 任 時 社 の先生に、 吋代のニー 会の

化

私

るようにしました。 めに 普 共 有 遍 的 けることもしてい な理 Ō 方針 念を です」 示 と S M ・ます。 目 0) 前 や S P 0) 本

校

を

私

たち教員が考えたことを、

生

覚的

に捉

えられ

あり 実 る力がまだ 3 牧野 たちの 態にふれるなかで見 根 É 幹として作ったものだ 新 実 す。 などと考えていました。 学科でも、 態に合わ 弱 社 いの 会に出 かな、 せ 入学、 るに えてきたこと 教 そこも 育 は人と関 した生 からです 活動 伸 を 生 徒 ば が す 徒 わ

校と社 なったので をつなぎ たち も大変嬉しく思いま 一会をつないでいく。 M あ た 学校と生 やSPによって、 変化 れば、 を S M 起こ 徒 を をつなぎ、 す きっか 今 緒に す 先生 口 \overline{O} 作 け 取 同 った 学 組 士

が

スクール・ポリシーの策定プロセス 2020年 4月 学校改革検討委員会発足 →教員アンケートなどを実施 2021年 進備 4月 ●SMやSPの策定開始 →学校改革検討委員会が中核に 5月 学校の教育目標 既存の教員・生徒・保護者アンケ トの分析 6月 検討 9月 検討委員会が各方面と協議 ・全員(職員会議)とSMやSPを ・教育課程委員会とCPを ・入選委員会とAPを 9月 職員会議でSP確定 2022年 運用 3月 較内研究会でSPに基づいて教育 実践を整理→生徒にも公開

PICK UP! 札幌啓北商業高校のGP

- 多様な社会状況において、商業高校の「学び」で得た知識・ 技能を活用し、課題探究のアプローチの方法を創造できる。 [Creation]
- ●様々な立場・価値観・考え方を持つ人と積極的に交流し、目 標達成に向けて協働することができる。 [Collaboration]
- ●課題を自ら探究し実践する中で、困難な問題に対しても粘り 強く挑戦することができる。 [Challenge]

このGPに紐づけて、自分たちの教育実践を捉え直すという校内研究会も行った。